

事例紹介

日本製鋼所株式会社

品質改革と信頼回復を支える ISO 19443認証取得



日本製鋼所株式会社



01. 顧客

株式会社日本製鋼所
原子力発電所向け圧力容器部材など、社会インフラを支える重要部材を提供する企業。北海道室蘭市の室蘭製作所を主力拠点とし、100年以上にわたる鑄鍛鋼技術を活かして国内外の原子力サプライチェーンを支えている。LRQAとは長年にわたりISO認証を中心に協働している。

02. 背景

2022年の不適切行為を受け、品質保証体制の再強化と原子力安全文化の醸成を最優先で推進。2023年の合同検査でISO 19443取得を強く推奨されたことから、本格的な取り組みを開始した。ASME Section IIIとISO 19443の調和が大きな課題であり、全社的な教育と意識醸成を伴う活動となった。海外向け比率の高さや、特にフランスのお客様からISO 19443適合を求められるという方向性が示されていることも取得を後押しした。

03. 結果

ISO 19443認証取得により、品質保証体制と原子力安全文化の強化が第三者から正式に評価され、信頼回復に大きく寄与した。ITNSグレードアップロードなど既存活動の体系化が進み、管理レベルが全社的に向上。主要なお客様からの評価も高まり、国際市場が求める要件への適合が明確に示されたことで、原子力産業分野における存在感と信頼性がさらに強化された。

LRQAは、株式会社日本製鋼所に対し、原子力分野に特化した品質マネジメントの国際規格であるISO 19443の審査を実施し、認証を授与しました。

日本製鋼所は、室蘭製作所を主力拠点とし、鑄鍛鋼技術を活かした素形材・エンジニアリング事業を展開しています。旧・日本製鋼所M&E株式会社が担ってきた事業を継承し、原子力発電所向け圧力容器部材をはじめとする社会インフラを支える重要部材を提供し、国内外の原子力サプライチェーンに貢献してきました。

室蘭製作所は日本製鋼所発祥の地であり、100年以上にわたる技術蓄積を背景に、グローバルな品質要求に応える体制を整備してきました。同社は2022年に発生した不適切行為を受け、品質保証体制の強化と原子力安全文化の醸成に取り組み、2023年には各国規制当局による合同検査を受検しました。その際にISO 19443認証の取得を強く推奨されたことが、今回の取り組み



2025年11月11日（火）に実施された認証授与式（当時の社名：日本製鋼所M&E株式会社）

を本格化させる契機となりました。

今回のISO 19443認証取得にあたり、株式会社日本製鋼所 品質管理部 品質保証グループ 担当課長 阿部 智明 様に、背景、取り組みのプロセス、審査の印象、そして認証取得後の効果についてお話を伺いました。

まず、ISO 19443認証取得を検討した背景から伺えますか？

以前からISO 19443の重要性は認識していましたが、2022年の不適切行為を受け、最優先は品質保証体制の再構築と原子力安全文化の醸成でした。取り組みの妥当性を外部の視点で確認する必要があるなか、2023年の合同検査でISO 19443の取得



を強く推奨いただいたことが、本格検討の直接の契機となりました。

併せて、原子力発電所向け部材は海外向け比率が高く、特にフランスのお客様から ISO 19443適合を発注要件とするとの方向性が示されています。国際市場の要件に確実に応えることが事業継続と信頼回復に直結すると判断し、第三者認証を不可欠な施策として位置づけました。

ISO 19443 を選択された理由を教えてください。

ISO 19443を選んだ理由は、原子力分野において求められる品質要求が国内外で高まっており、その重要性が当社としても明確に認識されたためです。当社は原子力発電所向け製品供給を主要事業の一つとしており、原子力産業特有のリスクや品質要求に確実に応えるためには、ISO 19443が定める枠組みが最も適していると判断いたしました。

他の規格との比較検討もされたのでしょうか？

いえ、他規格との比較検討は行っておりません。ISO 19443は原子力分野に特化した国際規格で、当社が強化すべき品質保証体制や安全文化の方向性と最も整合していたためです。社内では早い段階から「ISO 19443 は必須」という共通認識が形成され、他規格の検討は不要でした。

また、ISO 19443の導入は既存の品質保証システムをさらに改善・強化し、原子力安

全文化を恒久的に醸成するうえでも大きなメリットがあると考えております。当社が長年手掛けてきた原子力向け製品供給の事業特性を踏まえると、その要求事項は品質マネジメントを一段高い水準へ引き上げるために不可欠な仕組みであると確信しております。

ISO 19443の認証取得に向けた準備の中で、特に課題となった点について教えてください。

最も大きな課題は、既存の品質保証システムにISO 19443の要求事項を実務としてどう反映するかでした。当社の原子力製品に関する品質保証体制は、長年 ASME Section III に基づいて構築してきた重要な基盤です。一方で、ISO 19443と照らし合わせると意図や構造が異なる部分があり、両者の良い点をどう調和させるか慎重な検討が必要でした。このため、各部門とすり合わせを重ね、両規格の意図を丁寧に確認しながら調整を進める作業に多くの時間と労力を要しました。

社内への理解促進や体制づくりについてはいかがでしたか？

効果的な運用には、規格の目的・意義を全従業員が理解し、自分の業務に結びつけることが不可欠でした。文書整備だけでは不十分のため、原子力安全文化を理解し行動につなげることを重視し、部門別の教育や意見交換を重ねて共通認識の形成に取り組みました。

その結果、ISO 19443に基づく活動を自

律的に実践できる体制が整い、運用の再現性と継続性も向上しました。事務局が教育・文書体系・部門調整を主導した点も成功要因でした。現在は認証取得を出発点と捉え、作業員向け教育や特別教育、現場ヒアリングを継続し、体制強化を進めています。

ISO 19443マネジメントシステムを導入して、どのような効果がありましたか？

導入により、ITNSグレードアプローチや原子力安全文化の活動を体系的・一貫して運用できるようになり、原子力安全の管理が社内全体で一段と精緻化しました。活動の根拠や手順も明確になったと感じています。

品質・安全性の改善が進み、第三者から適切な水準との評価を得られた点は大きな成果です。ISO 19443の枠組みで品質マネジメントを見直したことが社内文化にも好影響を与え、安全文化の深化に集中でき、認証前と比べて組織の意識・行動は確実に高い水準へ向上しています。

ISO 19443 の認証取得後、外部からの反応やビジネス面での変化はありましたか？

ISO 19443の認証取得は、信頼回復に大きく寄与したと認識しています。2022年の不適切行為で国内外の原子力産業市場に多大なるご迷惑をお掛けいたしました。品質保証体制の強化や原子力安全文化の醸成に取り組み、今回の認証取得によってその取り組みを評価いただけたと受け止めています。



お客様からの反応はいかがでしたか？

主要なお客様から取得状況を定期的に確認いただいております。正式な報告後は良い反応につながりました。品質と安全性という最も重要な基盤を第三者認証で示せた点は、ビジネス面でも前進でした。新規案件への直接的な影響は一概に言えませんが、継続して引合や注文をいただいております。原子力産業における当社の存在感も強まっています。ISO 19443が国際的に重視される規格であることを踏まえると、今後の事業展開にもプラスに働くと考えています。

数ある認証機関の中で、LRQA を選んだ理由、そして審査の印象をお聞かせいただけますか？

LRQAを選定した最大の理由は、長年にわたる関係と信頼にあります。当社では1994年のISO 9001認証以来、審査や情報提供の面で継続的な支援をいただけてきました。今回のISO 19443は当社にとって必須の取り組みであり、認証機関に求めたのは何よりも信用度でした。その観点から、当社内で

は自然な流れとしてLRQAが最有力の選択肢となり、他社を検討する段階には至りませんでした。ISOマネジメントシステム分野における実績や専門性についても、LRQAが最も強いという印象を持っています。

審査については非常に前向きな印象です。審査チームは当社のISO 19443認証取得に向けて寄り添う姿勢で臨み、各段階で丁寧な指導や、実務に根ざした助言を示してくださいました。進め方も終始紳士的で、議論や提言は的確かつ建設的でした。いただいた指摘はどれも改善に有益であり、結果として当社のマネジメントシステムを次の水準へ引き上げる大きな後押しになったと感じています。

ありがとうございます。最後に、今後の展開についてお聞かせいただけますか？

ISO 19443の認証取得という非常に喜ばしい結果を得ることができましたが、この成果を到達点ではなく、次の段階へ進むための出発点と捉えています。今後も品質マ

ネジメントシステムの向上と改善を継続的に推進し、原子力安全文化のさらなる醸成に力を入れていきます。

認証取得で得られた体制や知見を確実に定着させ、組織全体が自律的に品質と安全を高め続けられる仕組みを、今後も継続して強化していく考えです。

本日はありがとうございました。

お問い合わせ

詳細については、 <https://www.lrqa.com/ja-jp/> をご覧ください。

LRQA リミテッド

〒220-6010 横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワー A10 階

本書に示すすべての情報が正確かつ最新であるように、LRQA リミテッドでは細心の注意を払っています。ただし、情報の不正確さや変更について当社は一切の責任を負いません。LRQA は、LRQA Group Limited およびその子会社の商号です。詳細については www.lrqa.com/entities をご参照ください。

©LRQA Group Limited 2026



LRQA
Your Risk Management
Advantage